

主 題：信仰と行い

聖書箇所：ヤコブの手紙2章14－26節

皆さん、おはようございます。このように皆さんとともにみことばを学べますことを心から感謝いたします。きょうはヤコブの手紙から皆さんと一緒に学んでいきたいと思っています。聖書箇所はヤコブの手紙2章14－26節です。聖書をお持ちの方はお開きください。14節からお読みします。

ヤコブ：2：14－26

「14 私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行いがないなら、何の役に立ちましょう。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。15 もし、兄弟また姉妹のだれかが、着る物がなく、また、毎日の食べ物にもこと欠いているようなときに、16 あなたがたのうちだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。暖かになり、十分に食べなさい。」と言っても、もしからだに必要な物を与えないなら、何の役に立つでしょう。17 それと同じように、信仰も、もし行いがなかったなら、それだけでは、死んだものです。18 さらに、こう言う人もあるでしょう。「あなたは信仰を持っているが、私は行いを持っています。行いのないあなたの信仰を、私に見せてください。私は、行いによって、私の信仰をあなたに見せてあげます。」19 あなたは、神はおひとりだと信じています。りっぱなことです。ですが、悪霊どももそう信じて、身震いしています。20 ああ愚かな人よ。あなたは行いのない信仰がむなしきことを知りたいと思いませんか。21 私たちの父アブラハムは、その子イサクを祭壇にささげたとき、行いによって義と認められたではありませんか。22 あなたの見ておるとおり、彼の信仰は彼の行いとともに働いたのであり、信仰は行いによって全うされ、23 そして、「アブラハムは神を信じ、その信仰が彼の義とみなされた。」という聖書のことばが、実現し、彼は神の友と呼ばれたのです。24 人は行いによって義と認められるのであって、信仰だけによるのではないことがわかるでしょう。25 同様に、遊女ラハブも、使者たちを招き入れ、別の道から送り出したため、その行いによって義と認められたではありませんか。」

○著者について：ヤコブ

この手紙を書いたヤコブは、1：1で簡明なことばで自分を紹介しています。「神と主イエス・キリストのしもべヤコブ」と。ギリシャ語では「デューロス」ということばが使われていますが、日本語に「しもべ」と訳されているこのことばの意味は「奴隷」です。ですからヤコブは、「私は神と主イエス・キリストに従順に仕える奴隷であり、全く主人に依存し服従する者です。」と言っているのです。彼はイエス様の兄弟でした。しかし彼は、イエス様がこの地上での伝道期間中にイエス様を信じることはありませんでした。ヨハネ7：5に「兄弟たちもイエスを信じていなかったのである。」と記されています。後に、彼はエルサレム教会の指導者となりました。そして彼は義人ヤコブと呼ばれ、祈りの人であったと言われています。

そのようなヤコブが2：14で「私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行いがないなら、何の役に立ちましょう。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。」と問いかけるのです。きょう私たちは、このヤコブの手紙を通して、信仰と行いの深い関係について学びたいと思います。それは「行いの伴っていない信仰」と、「行いの伴った信仰」とはどういう信仰なのかということです。

1. 行いの伴っていない信仰「生きて働かない信仰 / 死んでいる信仰」 15—20節

①口先だけの信仰 15—17節

15-20節には「行いの伴っていない信仰」のことが記されています。まず15-17節をお読みします。「:15 もし、兄弟また姉妹のだれかが、着る物がなく、また、毎日の食べ物にもこと欠いているようなときに、:16 あなたがたのうちだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。暖かになり、十分に食べなさい。」と言っても、もしからだに必要な物を与えないなら、何の役にたつでしょう。:17 それと同じように、信仰も、もし行いがなかったなら、それだけでは、死んだものです。」この15-17節では、口先だけの信仰について記されています。自分の周りに困っている人たちを見ても、ただことばをかけるだけで、実際に行いをもって信仰の実践をしない、そのような信仰です。着る物また毎日の食べ物は、私たちが生きていく上で必要な物です。その必要な物に欠乏している人たちを見ても助けようとし、そのような信仰のことです。確かに、ことばは大切なものです。ことばによってアドバイスをしたり、励ましをかけます。しかし、ことばに伴う行いが見えるときにこそ、そのことばは真に生きたものになるのです。16-18節で、ヨハネは愛について語っています。Iヨハネ3:16-18「:16 キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。:17 世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。:18 子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行いと真実をもって愛そうではありませんか。」ヨハネは、愛はことばや口先だけの態度には見出されない。愛は行いと真実の態度の中に見出される、と教えるのです。16節にあるように、イエス様は、行いと真実をもって私たちにご自身の愛を示されたのです。またこの口先だけの信仰は、ヤコブ2:14で「役に立たないもの」と記されています。それは、「益なものを何ももたらさない」ということです。また17節では「死んでいる」と書かれています。それは、外側の行いが機能していないというだけでなく、内側が死んでいる、ということです。これが、口先だけの信仰で「行いの伴っていない信仰」です。

②従わない信仰 18-20節

もう一つが、18-20節に記されている「従わない信仰」です。19-20節をお読みします。「:19 あなたは、神はおひとりだと信じています。りっぱなことです。ですが、悪霊どももそう信じて、身震いしています。:20 ああ愚かな人よ。あなたは行いのない信仰がむなしいことを知りたいと思いませんか。」悪霊たちも、神はおひとりだという真理は知っている、と書かれています。しかし彼らはその神に従おうとしない、従っていない。真理は理解していても、心から真理を受け入れて従おうとしない信仰—従わない信仰です。

まことの信仰は、知性だけに働くのではなくて、その人の心にまで働き、従おうという実を生み出すものです。パウロは、テトス1:16でこう言います。「彼らは神を知っていると口では言いますが、行いでは否定しています。実に忌まわしく、不従順で、どんな良いわざにも不適格です。」私たちは今、礼拝に参加してメッセージを聞いています。そして聖書の知識を得ていますが、皆さんは、教えられたその真理を信じるという実を生み出しているのでしょうか。

見せかけの行いもまた、従わない信仰です。そのことがマタイ7:21-23に記されています。「:21 わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられる私の父のみこころを行う者が入るのです。:22 その日には、大ぜいの者がわたしに言うでしょう、『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言をし、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇蹟をたくさん行ったではありませんか。』:23 しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します、『わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け。』」確かに、行いが見えます。しかし、その行いは、自分を信仰者のように見せようとする、見せかけの行いです。そこには全く心が伴っていません。それは自己中心的であり、また、かたちだけの信仰です。ヤコブはこの2:20で「ああ愚かな人よ。あなたは行いのない信仰がむなしいことを知りたいと思いませんか。」と記していましたが、従わない信仰はむなしい

信仰だとヤコブは言います。「ああ愚かな人よ。」と書かれています。この「愚かな」ということばですが、使われているギリシャ語「ケノス」は、「空虚な」とか「内容のない」という意味を持ったことばです。内側に全く何もない、そのような者たちのことを言うのです。

今私たちは、行いの伴っていない信仰のことを見ました。このような信仰を持って生きている人たちの信仰がその人たちの生き方になっていて、一時的でなくてこれが常態化している、継続している、そのような信仰です。この行いの伴っていない信仰は、救いをもたらすことはありません。先ほどもお読みしましたが、マタイ7：23でイエス様はこう言われるのです。「わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども、わたしから離れて行け。」この行いの伴っていない信仰、それは救いをもたらす信仰ではない、ということ私たちは心に留めるべきです。そしてヤコブは18節でこうも記しています。「私は、行いによって、私の信仰をあなたに見せてあげます。」と。

2. 行いの伴った信仰「生きて働く信仰」 21-25節

次に、「行いの伴った信仰」が、どういう信仰なのかを見ていきたいと思えます。その信仰については21-25節に記されています。行いの伴った信仰とは、生きて働く信仰のことです。21-25節「：21 私たちの父アブラハムは、その子イサクを祭壇にささげたとき、行いによって義と認められたではありませんか。：22 あなたの見ておるとおり、彼の信仰は彼の行いとともに行ったのであり、信仰は行いによって全うされ、：23 そして、「アブラハムは神を信じ、その信仰が彼の義とみなされた。」という聖書のことばが実現し、彼は神の友と呼ばれたのです。：24 人は行いによって義と認められるのであって、信仰だけによるのではないことがわかるでしょう。：25 同様に、遊女ラハブも、使者たちを招き入れ、別の道から送り出したため、その行いによって義と認められたではありませんか。」パウロはエペソ2：10でこう言います。「私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。」また、コロサイ3：9-10では「：9 あなたがたは、古い人をその行いと脱ぎ捨てて、：10 新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。」とパウロは述べています。本当に救われた者は新しい生き方をする者へと変えられたのです。主が喜ばれる行いをする者へと変えられたのです。行いの伴った信仰とは、本当に主によって救われた者たちの信仰です。先ほども読みましたが、ヤコブは二人の信仰をここに挙げて私たちに教えています。

①アブラハムの信仰 21-24節

ひとは21-24節に書かれているアブラハムのことです。皆さん、もう一度聖書を見ていただけますか。21節と23節です。この21節と23節のどちらが先にアブラハムに起こったことなのかといえば、ご存知のようにまず23節のことがアブラハムに起こりました。この23節に書かれていることは、創世記15：6節に「彼は【主】を信じた。主はそれを彼の義と認められた。」と書かれています。信仰とは、神が約束されたことを素直に受け入れる態度。それは、主とのみことばへの無条件の信頼を言います。信仰とは、主に対する無条件の信頼です。

●従順なアブラハムと神様の約束：

創世記の15章の前に、アブラハムは主からある召しを受けたと、創世記12：1-4に書かれています。ここでアブラハムは主から、「生まれ故郷のウルから出てわたしが約束する地に出て行くように」と言われました。そのときアブラハムはこのように主に従ったのです。「アブラムは【主】がお告げになったとおりに出かけた。」と。これは創世記12：4に書かれているのですが、このことをヘブル書の記者はヘブル11：8でこう説明するのです。「信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかわからないで、出て行きました。」これがアブラハムの信仰だったのです。

またアブラハムはある約束を主から与えられました。それが創世記15:4-5に記されています。その約束とは、まだアブラハムに与えられていなかったイサクを通してのすばらしい主からの約束です。神は、アブラハムの主を信じる信仰をよしとされて、神との正しい関係に入れられたのです。この後に起こったことがこのヤコブ2:21に記されていることです。この箇所にかかれていたことが、創世記22:1に「神はアブラハムを試練に会わせられた。」と記されています。この「試練」というのは、「アブラハムに与えられたひとり子イサクを主にささげなさい。」という命令でした。アブラハムはこの命令に従ったのです。そして創世記22:12でアブラハムにこういうことばがありました。「あなたの手を、その子に下してはならない。その子に何もしてはならない。今、わたしは、あなたが神を恐れることがよくわかった。あなたは自分の子、自分のひとり子さえ惜しまないでわたしにささげた。」そのことをヤコブは2:21で「その子イサクを祭壇にささげたとき、行いによって義と認められたではありませんか。」と記しています。アブラハムの行い、それは、アブラハムの信仰が本物であったことを証明するものとなったのです。ですから、「行いによって義と認められた」とヤコブは記しているのです。この「義と認める」ということについては、また後で詳しく学びたいと思います。22節では「彼の信仰は彼の行いとともにも働いたのであり、信仰は行いによって全うされ」た、と書かれています。「行いとともにも働いた」とは、行いの伴った信仰であったということです。また「信仰は行いによって全うされ」この「全うされ」ということばですが、17年度版の聖書をお持ちの方は「完成され」た、と書かれています。この「信仰は行いによって全うされ」とは「行いによって信仰が明らかにされた」という意味です。そして23節では「聖書のことばが実現し、彼は神の友と呼ばれたのです。」と記されています。この23節の「実現」するは、「満たす」という意味を持っています。いっぱいになるということです。ここで言うことは、アブラハムの行いまた生き方は、創世記15:6のみことばを完全に満たすこととなった、明らかにするものとなったということです。行いがこの聖書のことばを満たすこととなったと。ゆえに、彼は神の友と呼ばれたのです。それは、アブラハムの信仰、またその行いのゆえに、神はアブラハムを「神の友」と呼ばれたということです。

〈信仰と行いについて〉

義と認める(パウロとヤコブ)

私たちは非常に大切な24節をこれから見ます。先程も言いましたが、私たちはここで、「義と認める」ということばに注意を払わなければいけません。ここでヤコブは、パウロと同じ意味、救いを表すことばとして使っていない、ということです。ですからヤコブは、行いによって救われるとは言っていない、ということです。

私たちは、信仰と行いについて、特にこの「義と認める」ということばについて考えてみたいと思います。

(パウロ)・・・パウロは、救いするとき、人間の行いに関わりなく、神が罪人を義なる者(神の目から正しい者)と宣言するその行為を、義と認められるということだと述べています。そしてこの行為は、神の主権的絶対的な行為です。ガラテヤの2:16には「…ただキリスト・イエスを信じる信仰によって義と認められる、…」と記されています。またエペソ2:8-10にはこう記されています。「:8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。:9 行いによるものではありません。だれも誇ることもないためです。」10節が大切です。「:10 私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。」とパウロは言います。パウロも私たちに教えることは、本当に救われた者には良い行いが伴うということです。

(ヤコブ)・・・ヤコブも、救いは神のわざだ、と教えています。1ページ前のヤコブ1:18にはこう記されています。「父はみこころのままに、真理のことばをもって私たちをお生みになりました。私たちを、い

わば被造物の初穂にするためなのです。」と。ヤコブも、父はみこころのままに、真理のことばをもって私たちをお生みになりました、と言っています。しかし、ヤコブは言うのです。本当に救われた者にはその実としての良い行いが確実に現れる、その良い行いによってその人の信仰が真の信仰であることが明らかにされると。ヤコブはこのことを、義と認められる、というわけです。

行いの伴った信仰は、本当に救われた者たちの信仰です。パウロもヤコブも、救いは神のわざであり、本当に救われた者には行いが伴うのだ、と教えています。

②ラハブの信仰 25-26節

そしてヤコブは25節で、もうひとりの行いの伴った人物、遊女ラハブのことを例に挙げています。先には、あの偉大な信仰の父であるアブラハムを例に挙げましたが、ここでは、全く反対に住んでいるような人物として、当時は人々に嫌われていた遊女ラハブを例に挙げているのです。でも、ここでヤコブは、彼女の信仰と行いもアブラハムと同じものであった、と私たちに教えています。この遊女ラハブの信仰はヨシュア2:9-11に記されています。「9その人たちに言った。「【主】がこの地をあなたがたに与えておられること、私たちはあなたがたのことで恐怖に襲われており、この地の住民もみな、あなたがたのことで震えおののいていることを、私は知っています。:10あなたがたがエジプトから出て来られたとき、【主】があなたがたの前で、葦の海の水をからされたこと、また、あなたがたがヨルダン川の向こう側にいたエモリ人のふたりの王シホンとオグにされたこと、彼らを聖絶したことを、私たちは聞いているからです。:11私たちは、それを聞いたとき、あなたがたのため、心がしなえて、もうだれにも、勇気がなくなってしまいました。あなたがたの神、【主】は、上は天、下は地において神であられるからです。」」これがラハブの信仰告白です。入ってきた偵察の者をラハブはかくまって違う道から逃した、このラハブの行いはラハブの信仰に基づいた行いであったということです。アブラハムと同じように行いの伴った信仰、それがラハブの信仰でした。

3. 結論 26節

ヤコブは26節で結論を書いています。「たましいを離れたからだ、死んだものであると同様に、行いのない信仰は、死んでいるのです。」17年度版の聖書にはこう記されています。「からだを霊を欠いては死んでいるのと同じように、信仰も行いを欠いては死んでいるのです。」神の義によって救われ、信仰が与えられた人には、必ず信仰による行いが伴うのです。行いが伴わない人の信仰は死んでいるのです。信仰と行いは分離できるものではありません。それは一体となったものです。ルターはこのようなことばを書き記しています。「ああ、本当の信仰とは生き生きとして、なんと力強いことか。そのような信仰に少しの間でも良い行いが欠けているということはあり得ない。良い行いがなされたかどうかなどと尋ねることはない。そのようなことを尋ねる前に、すでに良い行いはなされている。それも絶え間なく…。けれども、そのような良い行いがその人のうちに見られないならば、そのような人は信仰者とは言えない。そのような人は懸命に信仰と良い行いについて探し求め、考えはする。しかし、いったい何が信仰で、何が良い行いなのか、わかっていない。ただ、その人は信仰と良い行いについて、たくさんのことばを持って繰り返し口先で語るにすぎない。」と。「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい。」皆さんがよくご存じのIコリント6:20のことばです。自分のからだをもって神の栄光を現しなさい、と教えます。皆さんの信仰、それはどのような信仰でしょうか？きょう私たちはこのヤコブの手紙から、ひとりひとりがもう一度自分の信仰を吟味するというすばらしいときを与えています。もう一度、考えましょう。